

大正十四年三月三十日

止

国立公文書館
利用上の注意

皇室議會、憲章、記及、同族員會議は、此公開の場における発言を記録したものであります。したがって当該発言者の共同著作物と解されまふので、引用等発表に際し著作権法上の問題の生ずることのないよう特に配慮願ひます。

國立公文書館

分類

2 A

15-9

④ D 564

樞密院會議筆記

- 一 各省官制通則中改正ノ件
- 一 農林省官制
- 一 商工省官制
- 一 農商務省官制廢止ノ件
- 一 奏任文官特別任用令中改正ノ件
- 一 大使館商務書記官、公使館商務書記官又ハ主トシテ商務事務ニ係ル者ハ奏任總領事、領事若シテ副領事ノ任用ニ關スル件
- 一 大正二年勅令第三百六十二號任用分限又ハ官等ノ初敘陞敘ノ規定ヲ適用セサル又官ニ關スル件中改正ノ件
- 一 朝鮮總督府官制中改正ノ件
- 一 奏任文官特別任用令中改正ノ件
- 一 朝鮮總督府鐵道局職員特別任用令
- 一 朝鮮總督府鐵道局職員特別任用令第一條又ハ第四條ノ規定ニ依リ朝鮮總督府鐵道局ノ參事又ハ副參事ニ任用セラルル者ノ官等ニ關スル件
- 一 滿洲州防禦營造地帶令中改正ノ件
- 一 滿洲州防禦營造地帶令中改正ノ件
- 一 西院ノ議決ニ經タル議院法中改正法律案

大正十四年三月三十日(月曜日)午前十時四十分
開議

攝政宮御臨場不被為在

出席員

濱尾議長

一木副議長

大臣

加藤内閣總理大臣 四番

高橋農商務大臣 五番

財部海軍大臣 八番

幣原外務大臣 九番

岡田文部大臣 十一番

仙石鐵道大臣 十二番

顧問官

穗積顧問官 十九番

富井顧問官 廿二番

井上顧問官 廿三番

平山顧問官 廿四番

有松顧問官 廿六番

珍田顧問官 廿七番

倉富顧問官 廿八番

中村顧問官 廿九番

山縣顧問官 三十番

山川顧問官 卅一番

武井顧問官 卅二番

黒田顧問官 卅五番

古市顧問官 卅六番

平沼顧問官 卅七番

松室顧問官 卅八番

江木顧問官 卅九番

關席員

皇族

雍仁親王 一番

宣仁親王 二番

載仁親王 三番

大臣

大養遞信大臣 六番

宇垣陸軍大臣 七番

若槻內務大臣 十番

濱口大藏大臣 十三番

小川司法大臣 十四番

顧問官

伊東顧問官 十六番

九鬼顧問官 十七番

金子顧問官 十八番

岡部顧問官 二十番

久保田顧問官 廿一番

石黑顧問官 廿五番

大森顧問官 卅三番

目賀田顧問官 卅四番

委員

塚本法制局長官

黑崎法制局參事官

以上各件二付

山川外務省條約局長

大使館商務書記官公使館商務書記官又ハ
主トシテ商務ニ従事スル者在總領事領事
若ハ副領事ノ任用ニ關スル件外一件二付

四條農商務次官

各省官制通則中改正ノ件外四件二付

山本朝鮮總督府事務官

岩崎朝鮮總督府技師

以上朝鮮總督府官制中改正ノ件外四件三
付

西山關東廳財務部長

關東州罰金及管刑處分令中改正ノ件三付

報告員

平山審査委員長

書記官長

二上書記官長

書記官

村上書記官

堀江書記官

議長(濱尾)

之ヨリ會議ヲ開ク

各省官制通則中改正ノ件ヨリ關東州防禦
營造物地帶令中改正ノ件ヲテノ十四件

ヲ一括シテ議題ニ供シ第一讀會ヲ開キ朗讀
ヲ省略シテ直ニ審査委員長ノ報告ヲ求ム

報告員(平山)

唯今議題ト為リタル各省官制通

則中改正ノ件外十三件ニ付審査ノ結果ヲ報
告ス

今回御諮詢ノ各省官制通則中改正ノ件外十
三件ニ關シ本官等審査委員タルノ命ヲ受ケ

本月二十三日、二十五日ノ兩回委員會ヲ開キ
テ國務大臣及當局諸官ノ説明ヲ聽キ以テ之
カ查覈ヲ遂ケタリ

今先ツ本案ノ各件ニ關シ其ノ内容ノ牽聯ス
ルモノハ之ヲ取纏メテ其ノ要旨ノ存スル所
ヲ開陳スレハ大凡左ノ如シ

第一 農商務省ノ分割ニ關スルモノ

今因内閣ノ提案ニ依レハ従前ノ農商務省
ヲ分割シテ農林及商工ノ二省ト為サント
ス其ノ理由ヲ要約スレハ前來農商務省ニ

於テ管理スル農商工ノ内農ニ關シテハ帝
國ノ國情ニ照シ特ニ刷新改善ヲ企圖スル
ノ必要アリ之カ為一省ヲ特立スルコトハ
年來世上ノ一部ニ唱道セラルル所ナリ且
農ト商工トハ同シク産業ニ屬スルモ行政
ノ性質ニ於テハ相異ナルモノアリ而シテ
農商工ノ事務ハ自今益多岐複雑ニ互ラム
トスルノ實況ニ在リ此等諸般ノ事由ニ考
ヘ農ト商工トヲ分離シテ之ヲ二省ノ管理
ニ分屬セシムルコト事宜ニ適スル所以ナ

リト言フニ在リ此ノ趣意ニ因由シ又ハ關
聯セル本案各件ノ要旨左ノ如シ

(一) 各省官制通則中改正ノ件

本文ノ勅令第一條ノ各省名ヲ列記シタ
ル條項ニ於テ農商務省ヲ削除シ之ニ代
フルニ農林及商工ノ二省ヲ以テス

(二) 農林省官制

農林大臣ハ農林水產畜產及米穀法施行
ニ關スル事務ヲ管理スルモノトシ農林
省ニ農務山林水產及畜產ノ四局ヲ置キ

又必要ナル地ニ米穀事務所ヲ設ケテ其
ノ事務ヲ分掌セシメ書記官及屬ノ定員
ヲ定メ事務官統計官小作官山林事務官
技師統計官補小作官補及技手ノ官ヲ置
クコト並其ノ定員官階及職制ヲ定ム(第九條乃至第十三條及第十七條)其ノ組ミ立テ方ハ
大體ニ於テ従前ノ農商務省ノ半分ト同
様ナリ

(三) 商工省官制

商工大臣ハ商工鑛山及地質度量衡及計

量並軍需調査統轄ニ關スル事務ヲ管理
スルモノトシ商工省ニ商務工務及鑛山
ノ三局中央度量衡檢定所並地質調査所
ヲ置キ又必要ナル地ニ中央度量衡檢定
所ノ支所出張所又ハ支所ノ出張所ヲ設
ケテ右事務ヲ分掌セシメ書記官及屬ノ
定員ヲ定メ事務官統計官保險事務官度
量衡事務官技師統計官補保險事務官補
技手取引所監督官取引所監督官補鑛務
監督官及鑛務監督官補ノ官又ハ職ヲ置

クコト並其ノ定員官階及職制ヲ定ム其
ノ組ミ立テ方ハ是レ亦大體ニ於テ従前
ノ農商務省ノ半分ト同様ナリ

(四) 農商務省官制廢止ノ件

農商務省官制ハ之ヲ廢止ス而シテ本令
施行ノ際現ニ農商務省ノ統計官其ノ他
本令ニ掲ケタル官ニ在ル者ハ此ノ際ニ
限リ其ノ儘其ノ職務ノ相當スル農林省
又ハ商工省ノ官ニ之ヲ任用スルコトヲ
得ルモノトシ本令施行ノ際現ニ農商務

省各局勤務ノ職ニ在ル者別ニ辭令ヲ發
セラレサルトキハ其ノ職務ノ相當スル
農林省又ハ商工省ノ官ニ同官等俸給ヲ
以テ任セラレタルモノトシ又農商務省
職員ニシテ本令施行ノ際現ニ休職中ノ
モノハ別ニ辭令ヲ發セラレサルトキハ
其ノ在職中ノ職務ノ相當スル農林省又
ハ商工省ノ職員ニ休職ノ儘同官等俸給
ヲ以テ任セラレタルモノトシ以テ廢廳
ニ因リ休職ノ利益ヲ失フコトナカラシ

ム

(五) 奏任文官特別任用令中改正ノ件

本文ノ勅令ノ適用ヲ受クル特別任用ノ
官タル従前ノ農商務省山林事務官カ農
林省山林事務官ト為ルニ伴ヒ同令ニ掲
ケタル官名ニ改訂ヲ加ヘ同令ニ掲ケタ
ル製鐵所副參事營林局山林事務官營林
署山林事務官及度量衡事務官ニ付其ノ
所管ノ省ノ順序ニ從ヒテ排列ヲ變更シ
現行官制ニ依ル農商務省ノ職員數ト本案

ニ依ル農林省及商工省ノ職員合計數トヲ比較スルニ各種事務ノ増進又ハ豫算ノ組替ニ因ル若干ノ増員ノ外二省ノ分離ニ因リ大臣政務次官次官參與官及秘書官各一人並大臣官房ノ事務ノ為書記官二人統計官一人技師一人屬二十六人及統計官補一人ヲ増加ス

第二 外務部内ノ商務ニ從事スル職員ニ關スルモノ
從來商務職員官制ニ依リ外務部内ニ於テ

在外公館ノ外ニ商務官（勅任又奏任）副商務官（奏任）及商務書記生（判任）ヲ置キ外務大臣及其ノ駐在國ニ在ル帝國大公使ノ指揮監督ヲ承ケテ海外ニ於ケル帝國ノ貿易ニ關スル事務ニ從事セシメタルカ今回經費ノ節約及處務ノ便宜ノ為之ヲ在外公館ノ外ニ置カス其ノ職員ノ班ニ列スルノ目的ヲ以テ別案ニ依リ前記ノ商務職員官制ヲ廢止スルト同時ニ外交官及領事官官制ニ一部ノ改正ヲ加ヘテ大使館商務參事官（勅任又奏任）大使館商務書

記官(任奏)及公使館商務書記官(任奏)ヲ新設シ且
官制ニ明記セサルモ主トシテ商務ニ從事
スル總領事(勅任又奏任)領事(任奏)副領事(任奏)及外務
書記生(任判)ヲ置クコトトスルニ伴ヒ茲ニ本
案ノ二件ヲ以テ右諸官中ノ數官ニ付其ノ
任用及初敘官等ニ關スル特別ノ規程ヲ設
ケムトスルモノニシテ其ノ要旨左ノ如シ
(一)大使館商務書記官、公使館商務書記官又
ハ主トシテ商務ニ從事スル奏任總領事、
領事若ハ副領事ノ任用ニ關スル件

新制ノ大使館商務參事官及主トシテ商
務ニ從事スル勅任總領事ハ一般ノ勅任
ノ外交官又ハ領事官ト同シク外交官領
事官及書記生任用令第七條ノ規定ニ依
リ外交及通商ノ事務ニ必要ナル學識技
能及經驗ヲ有スル者ノ中ヨリ高等試驗
委員ノ銓衡ヲ經テ之ヲ任用スルコトヲ
得ルモ大使館商務書記官、公使館商務書
記官又ハ主トシテ商務ニ從事スル奏任
總領事、領事若ハ副領事ニ付テハ一般ノ

外交官及領事官ノ任用規程ニ依ルコト
ヲ得サルカ故ニ茲ニ特別ノ規程ヲ設ケ
此等諸官ハ海外經濟事務ニ必要ナル學
識技能及經驗ヲ有スル者ノ中ヨリ高等
試験委員ノ銓衡ヲ經テ之ヲ任用スヘキ
モノト爲スナリ

(二)大正二年勅令第二百六十二號任用分限
又ハ官等ノ初敘陞敘ノ規定ヲ適用セサ
ル文官ニ關スル件中改正ノ件
新制ノ大使館商務參事官及主トシテ商

務ニ従事スル勅任總領事ハ本文ノ勅令
第二條ノ規定ニ依リ高等官官等俸給令
第四條ニ定メタル初敘官等ノ制限ヲ受
ケサルモノナルカ前項ノ特別規程ニ依
リ任用スル大使館商務書記官及主トシ
テ商務ニ従事スル奏任總領事以下ノ外
交官及領事館ニ付テモ亦此ノ例ニ依ル
ノ必要アルニ由リ茲ニ此等諸官ヲ本文
ノ勅令第二條中ニ追記スルナリ

第三 朝鮮總督府及同所屬官署ニ關スルモ

朝鮮總督府官制中改正ノ件

本案ノ要旨ハ(イ)朝鮮ニ於ケル國有鐵道ノ業務ハ大正六年以來之ヲ南滿洲鐵道株式會社ニ委託シタルカ地方産業ノ開發私設鐵道ノ監督其ノ他朝鮮統治ノ見地ヨリ見該鐵道特種ノ事情ニ應シテ之ヲ經營シ成ルヘク支出ヲ減シテ收益ヲ多カラシムルノ必要ヨリ見テ今回總督府對滿鐵會社間ノ細目契約ヲ更新スヘ

キ時期ニ際シ且一般ノ行政整理ノ機會ニ於テ右ノ委託ヲ解除シ官廳ニ於テ直接ニ該鐵道ノ業務ヲ掌理スルノ舊制ニ復スルコトトシ之カ為別案ヲ以テ朝鮮總督府外ニ朝鮮總督ノ管理ニ屬スル同府鐵道局ヲ設ケ朝鮮ニ於ケル國有鐵道及其ノ附帶ノ業務並私設鐵道及軌道ノ監督ニ關スル事務ヲ舉ケテ掌ラシムルコトニ改メムトスルニ伴ヒ本案ヲ以テ同府内ノ部局タル總督官房鐵道部ヲ廢

止シ同部長ヲ廢官トシ其ノ職制ノ條項
ヲ削除シ(四)行政整理ノ趣旨ヲ以テ内務
局附屬ノ行政講習所ヲ廢止シ同所長ニ
關スル條項ヲ削除シ(ハ)同様ノ趣旨ヲ以
テ觀測所附屬ノ測候所ヲ道地方費ノ支
辨ニ移替スルニ由リ之ニ關スル條項ヲ
削除シ(ニ)以上部所ノ改廢ニ伴ヒ本府職
員ニ於テ部長一人ノ外事務官技師屬及
技手各若干人ヲ減少セムトスルノ諸點
ニ在リ

(二)奏任文官特別任用令中改正ノ件ニ件

其ノ中一件ハ(イ)前ニ陳述シタル新設ノ
朝鮮總督府鐵道局ノ職員中副參事ニ付
テハ其ノ地位及職掌ニ照シ且之ニ類似
セル他官ノ例ニ考ヘ特別任用ノ途ヲ設
クルコト妥當ナルカ故ニ之ヲ本文ノ勅
令列記ノ官名中ニ追加シ(ロ)行政整理ノ
為國費支辨ノ朝鮮總督府道慈惠醫院ハ
一個所ノ外之ヲ道地方費ノ支辨ニ移替
シ。道立醫院ヲ設ケ之ニ事務官ヲ置クコ
ト。

トニ改メムトスルニ伴ヒ本案ヲ以テ本
文ノ勅令列記ノ官名ニ相當ノ改訂ヲ加
ヘ且本令施行ノ際現ニ道慈惠醫院事務
官ノ職ニ在ル者ハ此ノ際ニ限リ其ノ儘
道立醫院事務官ニ之ヲ任用スルコトヲ
得ル旨ヲ定メムトスルモノニシテ他ノ
一件ハ別案ヲ以テ朝鮮總督府部内臨時
職員ノ中ニ建築及土木ニ關スル事務ニ
従事セシムル為土木事務官ヲ新設セム
トスルニ伴ヒ其ノ地位及職掌ニ照シ且

之ニ類似セル他官ノ例ニ考ヘ本案ヲ以
テ之ヲ本文ノ勅令列記ノ官名中ニ追加
セムトスルモノナリ

(三) 朝鮮總督府鐵道局職員特別任用令

前ニ陳述シタルカ如ク朝鮮ニ於ケル國
有鐵道ノ業務ヲ滿鐵會社ヨリ朝鮮總督
府鐵道局ニ移管スルニ伴ヒ多數ノ職員
ヲ會社ヨリ鐵道局ニ引繼カサルヘカラ
ス從テ之カ為特別任用ノ途ヲ開クノ必
要アルニ由リ他ノ類似ノ場合ノ例ニ準

之本案ヲ以テ鐵道局職員中ノ數官ニ關
シ特別任用ノ規程ヲ設ケムトスルモノ
ニシテ其ノ要旨ハ(イ)朝鮮總督府鐵道局
官制施行ノ日ヨリ一年ヲ限リ參事ハ該
官制施行ノ際現ニ南滿洲鐵道株式會社
ノ高等事務員トシテ朝鮮ニ於ケル國有
鐵道ニ關スル事務ニ從事シ且三年以上
鐵道ニ關スル事務ニ從事シタル者ヨリ
副參事ハ同高等事務員トシテ右鐵道ニ
關スル事務ニ從事シタル者又ハ同事務

員トシテ右鐵道ニ關スル事務ニ從事シ
且三年以上鐵道ニ關スル事務ニ從事シ
タル者ヨリ高等試驗委員ノ銓衡ヲ經テ
之ヲ任用スルコトヲ得書記ハ同事務員
トシテ右鐵道ニ關スル事務ニ從事シ且
二年以上鐵道ニ關スル事務ニ從事シタ
ル者ヨリ普通試驗委員ノ銓衡ヲ經テ之
ヲ任用スルコトヲ得ルモノトシ(ロ)此ノ
規定ニ依リ副參事ニ任用セラレ在職三
年以上ニ達シタル者ハ高等試驗委員ノ

銓衡ヲ經テ之ヲ參事ニ任用スルコトヲ
得ルモノトシ(ハ)朝鮮總督府鐵道局官制
施行ノ際朝鮮ニ於ケル國有鐵道ノ事務
ニ從事シタル南滿洲鐵道株式會社ノ事
務員ニシテ引續キ朝鮮總督府鐵道局ニ
在職スル者ノ同社ニ於ケル本俸月額七
十圓以上ノ事務員トシテ鐵道ニ關スル
事務ニ從事シタル年數ハ之ヲ判任官ノ
在職年數ト看做シテ奏任文官特別任用
令ニ依リ同局副參事ニ任用スル場合ノ

要件ニ算入シ其ノ同社ニ於ケル事務員
トシテ鐵道ニ關スル事務ニ從事シタル
年數ハ之ヲ雇員ノ在職年數ト看做シテ
文官任用令第六條第七號ノ規定ニ依リ
同局書記ニ任用スル場合ノ要件ニ算入
スルノ諸點ニ在リ

(四)朝鮮總督府鐵道局職員特別任用令第一
條又ハ第四條ノ規定ニ依リ朝鮮總督府
鐵道局ノ參事又ハ副參事ニ任用セラル
ル者ノ官等ニ關スル件

前述ノ特別任用規程ニ牽聯シ其ノ適用
ヲ受ケタル者ノ官等ニ關シテモ亦特別
ノ規程ヲ設クルノ必要アリ是レ本案ノ
勅令ヲ出サムトスル所以ニシテ其ノ要
旨ハ朝鮮總督府鐵道局職員特別任用令
第一條ノ規定ニ依リテ南滿洲鐵道株式
會社ノ事務員ヲ朝鮮總督府鐵道局ノ參
事又ハ副參事ニ任用スル場合ニ於テハ
高等官官等俸給令第四條ニ定メタル初
級官等ノ制限ヲ適用セサルコトトシ前

記任用令第四條ノ規定ニ依リテ同局ノ
副參事ヲ參事ニ任用スル場合ニ於テハ
其ノ官等ニ關シテハ初級官等ノ制限ヲ
受ケサル高等文官カ其ノ制限ヲ受ケル
他ノ高等文官ト為ル場合ノ制タル明治
三十六年勅令第二百八十五號ノ規定ヲ
適用セズ一般ノ高等文官轉任ノ例ニ依
ルコトトシ右參事カ更ニ他ノ高等文官
ト為ル場合ニ於テハ右參事ヲ初級官等
ノ制限ヲ受ケサル高等文官ト為シテ明

治三十六年勅令第二百八十五號ノ規定
ヲ適用スルコトトスルニ在リ

第四 關東州罰金及答刑處分令中改正ノ件
這般行政整理ノ為大正十三年勅令第四百
三十九號ヲ以テ關東廳官制ニ一部ノ改正
ヲ加ヘ警務署及警務支署ヲ警察署及警察
支署ト改稱シ且關東州内ニ於テハ原則ト
シテ警務署及警務支署ノ事務ヲ民政署及
民政支署ニ併合シ特別ノ必要アル地域ニ
限リ民政署ノ管下ニ警察署又ハ警察支署

ヲ置クコトニ變更シタルニ伴ヒ本案ヲ以
テ本文ノ勅令ニ一部ノ改正ヲ加ヘ答刑ノ
言渡ノ確定シタル者ヲ拘置シ又ハ答刑ヲ
執行スル官署トシテ警務署、警務支署トア
リシヲ警察署、警察支署ニ改メ且之ニ民政
支署ヲ追加セムトス之ニ民政署ヲ追加セ
サルハ現在ニ於テ民政署ノ直轄區域ハ總
テ警察署又ハ警察支署ノ管轄ニ屬スルニ
由ル

第五 關東州防禦營造物地帶令中改正ノ件

這般行政整理ノ主旨ニ由リ大正十四年軍令海軍一號ヲ以テ本年四月一日以降旅順防備隊令ヲ廢止シ之ト同時ニ關東州ニ海軍所屬ノ防禦營造物ヲ存置セサルコトト為スニ伴ヒ本案ヲ以テ本分ノ勅令ニ若干ノ改正ヲ加ヘムトス即チ海軍所屬ノ防禦營造物ニ出入セムトスル者ハ旅順防備隊司令ノ許可ヲ受クヘキ旨ノ規定防禦營造物地帶ニシテ海軍ニ關係アルモノ又ハ專ラ海軍ニ關スルモノニ付旅順防備隊司令

佐世保鎮守府司令長官又ハ海軍大臣カ一定ノ職權ヲ行フ旨ノ規定旅順防備隊司令カ部下官僚ヲシテ防禦營造物地帶及其ノ附近ノ地ニ出入セシムルコトヲ得ル旨ノ規定竝官廳ニ於テ防禦營造物ニ出入シ又ハ防禦營造物地帶内ニ於テ一般ニ禁止セラレタル行為ヲ為サムトスルトキハ豫メ海軍官憲ニ協議スヘキ旨ノ規定ハ孰レモ不用ト為リタルカ故ニ之ヲ削除シ又防禦營造物地帶ノ決定同地帶内ニ於ケル禁止

行為ノ特別許可違反者ニ對スル復舊ノ命令又ハ一定ノ地域ヲ限り一般的ニ特種行為ノ禁止ヲ解除スルコトニ關シ其ノ海軍ノ防禦營造物地帶ニ關聯スルモノニ在リテハ陸軍官憲ハ之ヲ海軍官憲ニ協議スヘキ旨ノ規定ヲ改メ其ノ中比較的ニ重要ノ事項タル防禦營造物地帶ノ決定及一定ノ地域ヲ限り一般的ニ特種行為ノ禁止ヲ解除スルコトニ付テノミ陸軍大臣ハ海軍大臣ニ協議スヘキモノト為スナリ

按スルニ前述ノ通り農商務省ヲ分割シテ農林省及商工ノ二省ト為スハ行政組織ノ重要ナル變更ニシテ其ノ可否ニ付テハ素ヨリ審ニ攷究セサルヘカラス殊ニ農ト商工トハ俱ニ産業ノ範圍ニ屬シ其ノ間ニ密接ナル連繫ヲ存スルカ故ニ其ノ所管ヲ二省ニ分離スルニ因リ或ハ却テ不便ヲ醸スコトナキヤ又一般ノ行政整理ヲ斷行スルノ時期ニ於テ之ヲ實施セムトスルノ當否ニ付テハ特ニ考慮ヲ要スルモノアリ然レトモ内閣ニ於テ之ヲ重

要ナル政策ノ一トセラレ熱心ニ其ノ成立ヲ
希望セラルルノ意衷ヲ諒トシ且當面諸般ノ
事情ヲモ察シ又當局力最善ノ用意ニ由リテ
新制ノ運用宜キヲ得以テ克ク所期ノ效果ヲ
擧クルニ到ラムコトヲ期シテ之ニ同意スル
ノ外ナキモノト認ム而シテ之ニ關スル各件
ハ其ノ條項ニ於テハ孰レモ別ニ支障ノ虞ナ
シ又外務部内ノ商務ニ従事スル職員ノ任用
及初敘官等ニ關シ特別ノ規程ヲ設クルノ件
モ亦別ニ支障ノ點ナキモノト認ム朝鮮總督

府及同所屬官署ニ關スル各件ニ在リテハ朝
鮮ニ於ケル國有鐵道ノ經營方法ヲ一變スル
コト特ニ重要ナル事項ニシテ前來ノ經過ニ
徴シ深ク考慮スヘキ所ナルモ當局ノ施為宜
シキヲ得ヘキコトヲ期待シテ之ニ賛意ヲ表
スルノ外ナシ其ノ他右各件ハ其ノ條項ニ於
テハ孰レモ非議スヘキ廉ヲ認メス關東州ニ
關スル二件ハ畢竟官制規程ノ改廢ニ伴ヒタ
ル條項ノ整理ニ屬スルモノニシテ何等不都
合ノ點ナシト認ム

農商務省ノ分割ニ關スル案件ニ牽聯シテ特
ニ當局ノ注意ヲ喚起スヘキ事項アリ其ハ樞
密院官制トノ關係ナリ樞密院官制ノ現行規
定ニ依レハ各大臣ハ其ノ職權上ヨリ顧問官
タルノ地位ヲ有シ議席ニ列シ表決ノ權ヲ有
ス故ニ大臣ノ員數ヲ増加スルニ關連シテハ
毎ニ右官制ノ顧問官ノ員數等ニ關スル條項
ニモ想到シ以テ國務大臣ト對峙シテ樞密顧
問ヲ設置セラレタル 聖旨ヲ徹底スルニ遺
漏ナカラムコトヲ熟慮スヘキハ寔ニ事理ノ

當然ニモテ當局ニ於テ宜ク此ノ點ニ關シ審
究セララルヘキモノト思料ス

審査委員會ニ於テハ本案ノ各件ハ總テ此ノ
儘可決セララルヘキモノナル旨右ノ事項ト共
ニ全會一致ヲ以テ議決シタリ

右審査ノ結果ヲ報告ス

三十二番(武井)

此ノ際希望ヲ述ヘタキ事アリ

從來歷代ノ内閣ニ於テ農林ニ對シ継子扱ヲ
為シタル形跡アルハ遺憾ナリ抑本邦ノ富力
未タ充分ナラサルハ土地ノ利用完カラサル

力故ナリト信ス我カ國ノ面積ハ朝鮮臺灣及
樺太ヲ除キ内地ニ北海道ヲ合セタルノミニ
テ約三千九百萬町步アリ決シテ小國ト謂フ
ヘカラス然ルニ其ノ内利用セル面積即チ耕
地ノ面積ハ約五百九十萬町步ニシテ殘部ノ
約三千三百萬町步ハ不用益ノ儘放置セラレ
アリ之ヲ列國ニ比スルニ例ヘハ伊國ノ如キ
世間ニテハ歐洲大國中貧弱ナルモノト稱セ
ラレ其ノ面積我カ國ニ比シ一千町步少キニ
拘ラス其ノ利用セララル耕地ノ面積ハ千四

百萬町步ヲ算ス又佛國ハ面積大ニシテ我カ
國ニ比シ千四百萬町步廣ク其ノ利用面積二
千三百萬町步即チ我ノ約四倍ヲ有ス又我カ
國ノ主要貿易品タル生絲ハ内地人ノ衣服用
ニ供セララルモノヲ控除シ其ノ殘餘ヲ海外
ニ輸出シテ年々七八億圓ヲ獲得スルモノナ
ルニ桑園ノ面積ハ僅ニ六十萬町步ニ過キサ
ルノ實況ナリ然ラハ我カ國ノ土地ハ最早利
用ノ餘地ナキヤト言フニ決シテ然ラス山地
ト雖傾斜十五度以下ハ茶桑等ノ栽培ニ適ス

ヘキニ之ヲ開カスシテ林地トセルモノ頗ル
多シ又公私有ノ原野多ク存スルモ資力ナキ
為ニ開墾セラレサルモノアリ殊ニ官有原野
ノ如キ地元拂縁故拂ニ非サレハ之カ開墾ヲ
許可セラレサルカ故ニ他地方ニ資金ヲ有シ
開墾ヲ欲スル者アルモ其ノ希望達セラレサ
ル有様ナリ此ノ如クニシテ維新以來五十年
ヲ經タル今日尚未開墾地多シ是レ我カ國富
ノ増進遲々タル所以ナリ今若シ少シク工夫
ヲ廻ラシ開墾ヲ助成スルノ手段方法ヲ講セ

ムカ土地ノ利用面積ハ大ニ増加スヘク而シ
テ其ノ手段方法ハ多々アリト信ス惟フニ今
日ニ至ル迄土地ノ利用ヲ妨害シタル原因ハ
一ニシテ足ラサルモ其ノ最大原因ト目スヘ
キモノハ夫ノ地租條例ナリ現行ノ地租條例
ハ明治六年ノ制定ニ係ルモノニ其ノ端ヲ數
シタルカ當時地價ヲ定ムルニ當リ專ラ毛狀
ニ依リテ山林田畑ノ區別ヲ設ケタルカ故ニ
山林ト謂ヘハ險峻ノ地モ平地モ之ヲ一樣ニ
見做シ田畑ニ比シテ大ニ地價ヲ低廉ナラシ

メタリ故ニ山林ヲ變シテ畑ト為ストキハ租
税大ニ増嵩シ之ニ伴フ府縣市町村ノ附加税
ノ負擔亦輕カラサル結果ヲ来スヘク是レ世
人ヲシテ開墾ニ躊躇セシムル所以ナリ然レ
トモ地租條例ハ今日之ヲ改正セムトスレハ
議會ノ論議ヲ生シ容易ニ其ノ改正出来サル
ヘキヲ以テ本官ハ敢テ之カ改正ヲ望マサル
モ其ノ以外ニ於テ改革ノ方法ハ尚多々之ア
ルヘキヲ以テ政府ハ宜シク熱心ニ攷究ヲ遂
ケ土地ノ利用ヲ増進スルコトニ大ニ努メラ

レムコトヲ希望ス

次ニ人物經濟ノ見地ヨリシテ從來ノ當局カ
農林ヲ継子扱シタリト思ハルル節アリ明治
十四年農商務省ノ置カレタル際本官ハ内務
省ヨリ轉シテ同省ノ山林局長ト為リタルカ
其ノ頃始メテ西ヶ原ニ農林學校ヲ設ケ農林
ニ關スル教育ヲ施セリ爾後四十年間多クノ
林學士養成セラレ其ノ中ニハ博士ト為リタ
ル者亦少カラス本官ノ在職ハ六年ナリシカ
爾来今日ニ至ル迄ノ間ニ於テ山林局長ノ更

迭十六七人ニ及ヒタルカ未タ嘗テ林學士ニ
シテ之ニ用ヒラレタル者ナク其ノ多クハ法
學士ナリ即チ孰レモ斯ノ道ノ素人ナルカ故
ニ本官ノ山林局長タリシト毫モ擇ハス其ノ
局ニ依リテ始メテ農林ノ事務ヲ練習スルノ
有様ニシテ事績ノ擧ラサルハ固ヨリ其ノ所
ナリ是レ本官カ政府ハ農林ヲ継子扱スト言
フ所以ナリ政府ハ將來此ノ點ニ鑑ミ適材ヲ
登用シテ其ノ局ニ當ラシメ以テ事務ノ成績
ヲ擧ケシムルコトニカメラレタシ

尚前述ノ耕地擴張ノ必要ニ付附言セムニ耕
地ヲ利用セサルカ故ニ地方人ノ都會集中ト
為リ人口増加ヲ来スナリ今日ノ農村ニ於テ
ハ次三男ハ鋤鋤ヲ手ニセムモ場所ヲ得ラレ
サルニ苦ミ終ニ出稼ヲ為スノ已ムヲ得サル
ニ至ル其ノ結果ハ都會集中ト為リ農村ノ衰
頹ヲ来スナリ之ニ反シテ土地ヲ増加セハ仕
事多クナリ物産モ増加スヘシ其ノ方法タニ
宜ニ叶ハハ耕地ヲ擴張シテ佛國ノ耕地面積
ニ及ハサル迄モ伊國ノ千四百萬町歩ニ及フ

ハ容易ノ業タルヘシ今假ニ米ニ付テ見ルニ
我カ國ノ耕地五百五十萬町歩ノ半ハ米產地
ナルカ當今ハ耕作法ノ進歩ニ因リ右面積ノ
耕地ヨリ年々六千萬石ヲ產出ス即チ我カ國
ノ人口六千萬トスレハ一人一石ニ當ル古來
米ノ消費量ハ一人平均一石ト計算セルカ今
日ニ於テハ民間ニ麥芋等ヲ用フルノ風習廢
レ大抵米ヲ常食ト為スニ因リ右ノ計算ニ一
割ヲ加ヘ六千六百萬石ヲ要スト見ルカ相當
十リ加之食用以外ニ於テモ酒ノ釀造用ニ供

セラルルモノ亦少カラサルカ故ニ臺灣朝鮮
ヨリノ移入ニ止マラス柴棍蘭貢ヨリモ米ヲ
輸入スルノ現況ニ在リ然ルニ一方ニ於テ田
地ハ昔ハ遠方ヨリ水ヲ引キテ灌溉ノ用ニ供
シタルモ今日ハ地下水ヲ利用シ得ルニ因リ
高地ト雖米產ニ適セスト謂フヘカラス加之
西毛作ヲ為シ得ルカ故ニ新開墾ノ原野ヲ以
テ耕作ニ充ツルモ尚相當ノ收穫ヲ得ヘク此
ノ如クシテ土地ノ利用ヲ増進セハ我カ國ノ
富モ大ニ増加シ得ヘキナリ故ニ本官ハ今回

分離後ノ新農林省ニ於テ此等ノ點ニ大ニ留意セテ土地ノ開墾ニ盡力セラレムコトヲ偏ニ希望スル次第ナリ

五番(高橋) 只今武井顧問官ヨリ我カ農林ノ過去及現在ニ付詳細御陳述アリ且御希望ノ事項ヲ示サレタルカ本官ハ大體ニ於テ同顧問官ノ御希望ニ同感ナリ故ニ向後充分注意ヲ加ヘ御希望ニ副フ様努力スヘシ

議長(濱尾) 他ニ御發言モナキニ由リ第ニ讀會以下ヲ省略シテ直ニ採決ニ付スヘシ本案賛

成ノ各位ノ起立ヲ請フ

(全會一致可決)

○

議長(濱尾) 次ニ

兩院ノ議決ヲ經タル議院法中改正法律案ヲ議題トス本案ハ議會ノ議決ヲ經タルモノナルニ因リ讀會ヲ省略シテ大體議ニ止ム朗讀ヲ省略シテ直ニ審査委員長ノ報告ヲ求ム

報告員(平山) 唯今議題ト為リタル兩院ノ議決ヲ經タル議院法中改正法律案ニ付審査ノ結

果ヲ報告ス

今回御諮詢ノ兩院ノ議決ヲ經タル議院法中
改正法律案ニ關シ本官等又審査委員タルノ
命ヲ受ケ本月二十三日及二十五日委員會ヲ
開キテ當局諸官ノ説明ヲ聽キ以テ之カ查覈
ヲ遂ケタルニ本法律案ハ今期ノ帝國議會ニ
於テ衆議院ノ提出ニ基キ兩院ノ議決ヲ經タ
ルモノナリ其ノ内容ハ極メテ簡單ニシテ議
院法ニ一條ヲ追加シテ各議院ノ議長副議長
及議員ハ別ニ定ムル所ノ規則ニ從ヒ無賃ニ

テ國有鐵道ニ乗車スルコトヲ得ル旨ヲ定メ
本年四月一日ヨリ此ノ規定ヲ施行スルコト
ヲ定ムルニ在リ其ノ來歴ニ付當局ノ陳述ス
ル所ニ依レハ鐵道省ニ於テハ從來其ノ裁量
ニ依リテ帝國議會ノ議員其ノ他ニ對シテ國
有鐵道ノ無賃乗車券ヲ發行シ其ノ數漸ク多
キニ上リ濫發ノ嫌ナシトセサルニ至リタル
カ故ニ這般行政整理ノ趣旨ニ基キ該議員ニ
對シ本年四月一日以降無賃乗車券ヲ發行セ
サルコトトシ其ノ他無賃乗車券ノ發行ヲ著

シク制限シタルニ衆議院ニ於テハ帝國議會
ノ議員ニ對シテハ優遇ノ為引續キ無賃乗車
券ヲ發行スヘク且法規ヲ以テ其ノ旨ヲ明定
スヘキモノト為シ自ラ本法律案ヲ提出シテ
之ヲ可決シ貴族院ニ於テモ亦其ノ衆議院ノ
議決ヲ經タルモノナルコトヲ斟酌シテ之ヲ
可決シタリ而シテ政府ハ議院ニ於テ本法律
案ヲ審議スル際行政整理ノ趣意ニ照シテ直
ニ之ニ賛成シ難キモ其ノ兩院ヲ通過シタル
上ハ更ニ考慮スル所アルヘキ旨ヲ辯明スル

ニ止マリシカ今日其ノ既ニ兩院ノ議決ヲ經
タルニ考ヘ茲ニ本法律案ノ御裁可ヲ奏請ス
ルニ至リシモノナリト言フ
抑本法律案ハ其ノ趣旨ニ於テ果シテ妥當ノ
處置ナルヤ否ヤ蓋シ疑ナキコト能ハスト雖
既ニ兩院ノ議決ヲ經内閣ニ於テ御裁可ヲ奏
請シタルモノニシテ且事態サノミ關要ナル
モノニ非サルカ故ニ獨リ本院ニ於テ御裁
可ノ議ヲ以テ奉答スルヲ要セサルモノト思
料ス仍テ審査委員會ニ於テハ本案ハ此ノ儘

之ヲ可決セラルヘキ旨全會一致ヲ以テ議決
シタリ

右審査ノ結果ヲ報告ス

議長(濱尾) 別ニ御發言モナキニ由リ直ニ採決

ニ付スヘシ本案賛成ノ各位ノ起立ヲ請フ

〔全會一致可決〕

〔午前十時三十五分閉會〕

議長子爵濱 尾 新

書記官長ニト兵 沼

書記官

村上 恭一
堀江 季雄

勅令第 號

各省官制通則中左ノ通改正ス
第一條中「農商務」ヲ「農林商工」ニ改ム

附則

本令ハ大正十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第 號

農林省官制

第一條 農林大臣ハ農林水產畜產及米

穀法施行ニ關スル事務ヲ管理ス

第二條 農林省ニ左ノ四局ヲ置ク

農務局

山林局

農

水産局

畜産局

第三條 農務局ニ於テハ農事、蠶繭、生絲、

茶、副業、狩獵、産業組合、産業組合中央金

庫及米穀法施行ニ關スル事務ヲ掌ル

第四條 山林局ニ於テハ森林、原野ニ關

スル事務ヲ掌ル

農二

第五條 水産局ニ於テハ水産ニ關スル

事務ヲ掌ル

第六條 畜産局ニ於テハ家畜ノ改良、増

殖、家畜衛生其ノ他畜産ニ關スル事務

ヲ掌ル

第七條 農林大臣ハ必要ト認ムル地ニ

米穀事務所ヲ設ケ米穀法施行ニ關スル

事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

米穀事務所長ハ農林技師ヲ以テ之ニ
充ツ

第八條 農林書記官ハ專任十人ヲ以テ
定員トス

第九條 農林省ニ農林事務官專任五人
ヲ置ク

農林事務官ハ奏任トス上官ノ命ヲ承
ケ農林省ノ事務ヲ掌ル

第十條 農林省ニ統計官專任一人ヲ置
ク

統計官ハ奏任トス上官ノ命ヲ承ケ農
林統計ヲ掌ル

第十一條 農林省ニ小作官專任三人

置ク

小作官ハ奏任トス上官ノ命ヲ承ケ小
作爭議調停ニ關スル事務ヲ掌ル

第十二條 農林省ニ山林事務官專任一
人ヲ置ク

山林事務官ハ奏任トス上官ノ命ヲ承
ケ森林原野ニ關スル事務ヲ掌ル

第十三條 農林省ニ農林技師專任三十
三人ヲ置ク

農林技師ハ奏任トス但シ内三人以内
ヲ勅任ト為スコトヲ得農林技師ハ上
官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第十四條 農林屬ハ專任八十四人ヲ以
テ定員トス

第十五條 農林省ニ統計官補專任二人

ヲ置ク

統計官補ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承
ケ農林統計ニ従事ス

第十六條 農林省ニ小作官補專任四人

ヲ置ク

小作官補ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承

農 五

ケ小作爭議調停ニ關スル事務ニ従事
ス

第十七條 農林省ニ農林技手專任四十

一人ヲ置ク

農林技手ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承
ケ技術ニ従事ス

附 則

本令ハ大正十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第 號

商工省官制

第一條 商工大臣ハ商工、鑛山及地質度量衡及計量並軍需調査統轄ニ關スル事務ヲ管理ス

第二條 商工省ニ左ノ三局ヲ置ク
商務局

工務局

鑛山局

第三條 商務局ニ於テハ商事ニ關スル事務ヲ掌ル

第四條 工務局ニ於テハ工業度量衡及計量並軍需調査統轄ニ關スル事務ヲ掌ル

第五條 鑛山局ニ於テハ鑛山及地質ニ關スル事務ヲ掌ル

第六條 商工省ニ中央度量衡檢定所ヲ置キ度量衡器及計量器ノ檢定比較檢査及試驗其ノ他度量衡及計量ニ關スル事務ヲ掌ラシム

商工大臣ハ必要ト認ムル地ニ中央度

量衡檢定所ノ支所ヲ設ケ中央度量衡檢
定所ノ事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

中央度量衡檢定所長ハ商工技師支所
長ハ商工技師又ハ商工技手ヲ以テ之
ニ充ツ

商工大臣ハ必要ト認ムル地ニ中央度
量衡檢定所ノ出張所又ハ中央度量衡

二三

檢定所支所ノ出張所ヲ設クルコトヲ
得

第七條 商工省ニ地質調査所ヲ置キ地
質調査ニ關スル事項ヲ掌ラシム

地質調査所長ハ商工技師ヲ以テ之ニ
充ツ

第八條 商工書記官ハ專任十一人ヲ以

ヲ定員トス

第九條 商工省ニ商工事務官專任十七人ヲ置ク

商工事務官ハ奏任トス上官ノ命ヲ承ケ商工省ノ事務ヲ掌ル

前二項ノ職員ノ外工務局ノ事務ニ従事セシムル為商工大臣ノ奏請ニ依リ

二四

關係各廳高等官ノ中ヨリ内閣ニ於テ商工事務官ヲ命スルコトヲ得

第十條 商工省ニ統計官專任一人ヲ置ク

統計官ハ奏任トス上官ノ命ヲ承ケ商工統計ヲ掌ル

第十一條 商工省ニ保險事務官專任三

人ヲ置ク

保険事務官ハ奏任トス上官ノ命ヲ承
ケ保險ニ關スル事務ヲ掌ル

第十二條 商工省ニ度量衡事務官專任
一人ヲ置ク

度量衡事務官ハ奏任トス上官ノ命ヲ
承ケ度量衡及計量ニ關スル事務ヲ掌

ル

第十三條 商工省ニ商工技師專任五十
一人ヲ置ク

商工技師ハ奏任トス但シ内三人以内
ヲ勅任ト為スコトヲ得商工技師ハ上
官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第十四條 商工屬ハ專任八十八人ヲ以

テ定員トス

第十五條 商工省ニ統計官補專任二人

ヲ置ク

統計官補ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承

ケ商工統計ニ従事ス

第十六條 商工省ニ保險事務官補專任

五人ヲ置ク

二六

保險事務官補ハ判任トス上官ノ指揮ヲ

承ケ保險ニ關スル事務ニ従事ス

第十七條 商工省ニ商工技手專任百十

八人ヲ置ク

商工技手ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承

ケ技術ニ従事ス

第十八條 商工省ニ取引所監督官及取

引所監督官補ヲ置ク

取引所監督官ハ商工書記官、商工事務官又ハ商工技師ヲ以テ、取引所監督官補ハ商工屬又ハ商工技手ヲ以テ之ニ充ツ

取引所監督官ハ上官ノ命ヲ承ケ取引所法施行ニ關スル事務ヲ掌ル

取引所監督官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ取引所法施行ニ關スル事務ニ従事ス

第十九條 商工省ニ鑛務監督官及鑛務監督官補ヲ置ク

鑛務監督官ハ商工書記官、商工事務官又ハ商工技師ヲ以テ、鑛務監督官補ハ商工屬又ハ商工技手ヲ以テ之ニ充ツ

鑛務監督官ハ上官ノ命ヲ承ケ鑛業警
察ニ關スル事務ヲ掌ル

鑛務監督官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ鑛
業警察ニ關スル事務ニ従事ス

附則

本令ハ大正十四年四月一日ヨリ之ヲ施
行ス

勅令第 號

農商務省官制ハ之ヲ廢止ス

附則

本令ハ大正十四年四月一日ヨリ之ヲ施
行ス

本令施行ノ際現ニ左ノ上欄ニ掲クル官
ニ在ル者ハ本令施行ノ際ニ限リ各相當

下欄ニ掲クル官ニ特ニ之ヲ任用スルコ
トヲ得但シ農商務技師又ハ農商務技手
ヲ農林技師若ハ商工技師又ハ農林技手
若ハ商工技手ニ任用スルハ本令施行ノ
際其ノ現ニ従事スルト同種ノ技術ニ従
事スル場合ニ限ル

農商務省統計官

農林省統計官

廣二

農商務省小作官	農林省小作官
農商務省山林事務官	農林省山林事務官
農商務技師	農林技師
農商務省統計官補	農林省統計官補
農商務省小作官補	農林省小作官補
農商務技手	農林技手
農商務省統計官	商工省統計官

保險事務官	保險事務官
度量衡事務官	度量衡事務官
農商務技師	商工技師
農商務省統計官補	商工省統計官補
保險事務官補	保險事務官補
農商務技手	商工技手

本令施行ノ際現ニ左ノ上欄ニ掲クル職

三

ニ在ル者別ニ辭令ヲ發セラレサルトキ
ハ各其ノ相當下欄ニ掲クル官ニ同官等
俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

農商務省農務 司山林局水産局 又農務局勤務	農商務書記官
農商務省農務 司山林局水産局 又農務局勤務	農林事務官

農商務省小作官	農林省小作官
農商務省山林事務官	農林省山林事務官
農商務省農務 局山林局水産局 又、畜産局勤務 農商務技師	農林技師
農商務省農務 局山林局水産局 又、畜産局勤務 農商務屬	農林屬
農商務省小作官補	農林省小作官補

農商務省農務 局山林局水産局 又、畜産局勤務 農商務技手	農林技手
農商務省商務 局工務局又、 礦山局勤務 農商務書記官	商工書記官
農商務省商務 局工務局又、 礦山局勤務 農商務事務官	商工事務官
保險事務官	保險事務官

度量衡事務官

度量衡事務官

農商務省商務
司工務局又ハ
鑛山局勤務

農商務技師

商工技師

農商務省商務
局工務局又ハ
鑛山局勤務

農商務屬

商工屬

保險事務官補

保險事務官補

農商務省商務
局工務局又ハ
鑛山局勤務

農商務技手

商工技手

本令施行ノ際現ニ農商務書記官、農商務技師、農商務技手ニシテ休職ノ者別ニ令ヲ發セラレサルトキハ農商務書記官、農商務技師及農商務技手ハ各農林書記官、商工技師及農林技手ニ農商務屬ハ其ノ休職ヲ命セラレタル際農商務省山林局ニ勤務シタル者ニ在リ

テハ農林屬ニ其ノ休職ヲ命セラレタル
際農商務省鑛山局ニ勤務シタル者ニ在
リテハ商工屬ニ休職ノ儘各同官等俸給
ヲ以テ任セラレタルモノトス

勅令第 號

奏任文官特別任用令中左ノ通改正ス

「製鐵所副參事」農林省山林事務官

農商務省山林事務官 營林局山林事務官

營林局山林事務官ヲ營林署山林事務官ニ改ム

營林署山林事務官 度量衡事務官

度量衡事務官「製鐵所副參事」

附則

本令ハ大正十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第 號

大使館商務書記官、公使館商務書記官又
ハ主トシテ商務ニ従事スル奏任總領事、
領事若ハ副領事ハ海外經濟事務ニ必要
ナル學識技能及經驗ヲ有スル者ノ中ヨ
リ高等試験委員ノ銓衡ヲ經テ之ヲ任用

ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第 號

大正二年勅令第二百六十二號中左ノ通
改正ス

第二條中「勅任外交官及勅任領事官」下
ニ「竝大正十四年勅令第 號ニ依リ任
用セラルル外交官及領事官」ヲ加フ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第 號

朝鮮總督府官制中左ノ通改正ス

第十條 總督官房及各局ノ事務ノ分掌

ハ總督之ヲ定ム

第十一條中事務官 專任三十二人「ヲ事
務官 專任三十人」ニ「技師 專任三十二人

奏任内四人ヲ勅任
ト為スコトヲ得「技師 專任二十九人

奏任

内三人ヲ勅任ト
為スコトヲ得

ニ屬

專任二百十六人ヲ

屬

專任二百六人ニ、技手

專任百三十

五人ヲ技手

專任百十三人ニ改メ部長

一人勅任ヲ削ル

第十三條 削除

第二十一條 削除

第二十二條 削除

朝官 二

第二十三條第二項ヲ削ル

第二十四條中「測候所長ハ朝鮮總督府技

手ヲ削ル

第二十五條中「及測候所」ヲ削ル

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第 號

奏任文官特別任用令中左ノ通改正ス

朝鮮總督府通信副事務官ノ次ニ朝鮮總
督府鐵道局副參事ヲ加ヘ朝鮮總督府道
慈惠醫院事務官ヲ朝鮮道立醫院事務官
ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ朝鮮總督府道慈惠
醫院事務官ノ職ニ在ル者ハ本令施行
ノ際ニ限り朝鮮道立醫院事務官ニ特ニ
之ヲ任用スルコトヲ得

勅令第 號

奏任文官特別任用令中左ノ通改正ス
鐵道局副參事ノ次ニ朝鮮總督府土木事
務官ヲ加フ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第

號

朝鮮總督府鐵道局職員特別

任用令

第一條 朝鮮總督府鐵道局參事ハ朝鮮

總督府鐵道局官制施行ノ際現ニ南滿

洲鐵道株式會社ノ高等事務員トシテ

朝鮮ニ於ケル國有鐵道ニ關スル事務

ニ從事シ三年以上鐵道ニ關スル事務
ニ從事シタル者ヨリ高等試験委員ノ
銓衡ヲ經テ之ヲ任用スルコトヲ得
朝鮮總督府鐵道局副參事ハ朝鮮總督
府鐵道局官制施行ノ際現ニ南滿洲鐵
道株式會社ノ高等事務員トシテ朝鮮
ニ於ケル國有鐵道ニ關スル事務ニ從

鐵ニ

事シタル者ヨリ又ハ同官制施行ノ際
現ニ同社ノ事務員トシテ朝鮮ニ於ケ
ル國有鐵道ニ關スル事務ニ從事シ三
年以上鐵道ニ關スル事務ニ從事シタ
ル者ヨリ高等試験委員ノ銓衡ヲ經テ
之ヲ任用スルコトヲ得

第二條 朝鮮總督府鐵道局書記ハ朝鮮

總督府鐵道局官制施行ノ際現ニ南滿
洲鐵道株式會社ノ事務員トシテ朝鮮
ニ於ケル國有鐵道ニ關スル事務ニ從
事シ二年以上鐵道ニ關スル事務ニ從
事シタル者ヨリ普通試驗委員ノ銓衡
ヲ經テ之ヲ任用スルコトヲ得

第三條 前二條ノ規定ハ朝鮮總督府鐵

道局官制施行ノ日ヨリ一年ヲ限リ之
ヲ適用ス

第四條 第一條第二項ノ規定ニ依リテ
朝鮮總督府鐵道局副參事ニ任用セラ
レタル者ニシテ三年以上其ノ官ニ在
職シタル者ハ高等試驗委員ノ銓衡ヲ
經テ之ヲ朝鮮總督府鐵道局參事ニ任

用スルコトヲ得

第五條 朝鮮總督府鐵道局官制施行ノ
際朝鮮ニ於ケル國有鐵道ノ事務ニ従
事シタル南滿洲鐵道株式會社ノ事務
員ニシテ引續キ朝鮮總督府鐵道局ニ
在職スル者ノ同社ニ於ケル本俸月額
七十圓以上ノ事務員トシテ鐵道ニ關

スル事務ニ従事シタル年數ハ奏任文
官特別任用令中朝鮮總督府鐵道局副
參事ニ關スル規定ノ適用ニ付テハ之
ヲ判任官ノ在職年數ト看做ス

第六條 朝鮮總督府鐵道局官制施行ノ
際朝鮮ニ於ケル國有鐵道ノ事務ニ従
事シタル南滿洲鐵道株式會社ノ事務

員ニシテ引續キ朝鮮總督府鐵道局ニ
在職スル者ノ同社ニ於ケル事務員ト
シテ鐵道ニ關スル事務ニ従事シタル
年數ハ其ノ者ヲ朝鮮總督府鐵道局書
記ニ任用スル場合ニ限リ文官任用令
第六條第七號ノ規定ノ適用ニ付テハ
之ヲ雇員ノ在職年數ト看做ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第

號

朝鮮總督府鐵道局職員特別任用令第一
條ノ規定ニ依リテ南滿洲鐵道株式會社
ノ事務員ヲ朝鮮總督府鐵道局ノ參事又
ハ副參事ニ任用スル場合ニ於テハ高等
官官等俸給令第四條ノ規定ヲ適用セシ
朝鮮總督府鐵道局職員特別任用令第四

條ノ規定ニ依リテ朝鮮總督府鐵道局副
參事ヲ同局參事ニ任用スル場合ニ於テ
ハ明治三十六年勅令第二百八十五號ノ
規定ヲ適用セス

朝鮮總督府鐵道局職員特別任用令第四
條ノ規定ニ依リテ任用セラレタル朝鮮
總督府鐵道局參事ハ之ヲ明治三十六年

南二

勅令第二百八十五號ニ規定スル特別文
官トス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第 號

關東州罰金及笞刑處分令中左ノ通改正
ス

第九條及第十一條中「警務署又ハ警務支
署」民政支署、警察署又ハ警察支署ニ改
ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第 號

防一

又 關東州防禦營造物地帶令中左ノ通改正

第三條中「其ノ所屬ニ從ヒ」及「又ハ旅順防
備隊司令ヲ削ル

第十一條 削除

第十二條 第二條及第十條ノ場合ニ於

テハ陸軍大臣ハ海軍大臣ニ協議スヘシ
第十三條中「及旅順防備隊司令ヲ削ル
第十四條中「陸海軍官憲ヲ陸軍官憲ニ改
ム

附則

本令ハ大正十四年四月一日ヨリ之ヲ施
行ス

法律第 號

議一

議院法中左ノ通改正ス

第十九條ノ二 各議院ノ議長副議長及

議員ハ別ニ定ムル所ノ規則ニ從ヒ無

賃ニテ國有鐵道ニ乗車スルコトヲ得

附則

本法ハ大正十四年四月一日ヨリ之ヲ施